

第五回 坂上田村麻呂と池田 (下)

前回は坂上田村麻呂と池田との関わりを紹介し、田村麻呂が征伐したと言われている八面大王とは何者で、ほんとうに田村麻呂はこの地にきて八面大王を征伐したのか?このことについての3説のうち、「大王悪人説」を紹介しました。

2つ目の説は「大王善人説」です。

その概要は...: 朝廷の蝦夷(えみし)征伐のため、徴兵・徴用などの住民負担はひどく、地域の偉大な支配者であった大王は住民の生活を守るため朝廷に背いた。このために田村麻呂に征伐された。...以上の説は中島博昭先生の「探訪安曇野」その旅と歴史ロマン」に詳しく述べられています。

3つ目の説は最近の説で、このシリーズの最初に紹介した川会神社と泉小太郎の由来について述べられた坂本博先生により新たな考察から導き出された「大王」安曇族の首領説です。



八面大王足湯の大王モニュメント。穂高温泉郷「やくなげ荘」の近くにある。1985年穂高町により造られた。

を北上し、糸魚川から安曇野に入り、この地方を開発し、文化を発展させ、地域の支配者となった。しかし、後から安曇地域に入ってきた仁科氏の確執のなかで、戦いに破れ消えて行く」と分析。さらに、「桓武天皇の延暦12年(793年)の2、3月頃、田村麻呂がこの地を訪れ、仁科氏とともにネズミ族の首領(八面大王)を征伐した」と推定しています。

「ネズミ族の首領(八面大王)は自らの命と引き換えに部下の命をいとし、戦いはあつけなく田村麻呂・仁科連合軍の勝利となった。その後、仁科氏は安曇族を歴史から抹殺するため「大王悪人」伝説を作り上げた。しかし、安曇野・有明山などの地名までは抹殺できず、信濃安曇族の残骸として生き残った」

以上のは説は坂本先生の「信濃安曇族の謎を追う」どこから来て、どこへ消えたか」に詳しく述べられています。

この本は、我々の先祖に関係が深い信濃安曇族の歴史を科学的な根拠を持って推測している大変面白い本です。また、「信濃安曇族の残骸を復元するー見えないものをどのようにして見るかー」も最近発売され注目されています。

ちなみに、先生は福岡県戸畑市のご出身で、信州大学教授として活躍され、現在吾妻町団地に住んでおられます。この際、是非一読してみられることをお勧めいたします。

*仁科濠觴(らんしよう)記...: 仁科氏の歴史書

部内資料

発行責任者 村端 浩 (62-8440)
議員連絡先 山本 久子 (61-1066)
服部 久子 (62-4357)

80号
2008年6月

日本共産党
池田ファンクラブ・ニュース
あした天気にな〜れ

自・公政権の黒い下心

今度は「介護」の切り捨て
出口は消費税の増税!!

福田政権は後期高齢者医療制度に引き続き、介護給付の見直しによる経費減による介護の切捨てをねらっています。

5月13日の財務省の財政制度等審議会財政構造改革部会は総額約2兆4300億円(うち、国庫負担分約7100億円)にのぼる介護給付費削減の試算を発表しました。
概要は次の3点です。

- ①要介護度2以下の介護サービスの廃止
(給付費削減額)約2兆900億円、うち国庫負担削減額は約6100億円
②「生活援助サービス」のみ受ける人の介護サービスの廃止
(給付費削減額)約1100億円、うち国庫負担削減額は約300億円
③介護費の自己負担を1割から2割に引き上げ
(給付費削減額)約2300億円、うち国庫負担削減額は約700億円

もし、この案が実施に移されれば、介護制度の根幹を崩す大改悪であり、断固として阻止しなければなりません。

シンポジウム

日本農業の再生と食を考える

7月5日(土) 午後1時30分より
サンアルプス大町(文化会館隣)

パネリスト

- 田辺 一弘氏 (有) ライスファーム野口代表取締役
近藤 敏子氏 (学校栄養士)
平林 信一氏 (JA 大北営農部長)
宮島 弘氏 (JA 長野中央会松本事業部次長)
山口のりひさ氏 (日本共産党北陸信越国政対策委員長)

コーディネーター

藤沢 のり子氏 (長野県議会議員)

主催 農業シンポ実行委員会
日本共産党大北議員団

ばなりません。
しかし、財政制度等審議会の西村泰三会長(東京証券取引所会長)は会合直後の記者会見で「介護保険制度」の根本の見直しをやる時期に差しかかっている」と述べ、5月20日 福田首相も経済財政諮問会議で「06年の骨太の方針にのっとり引き続き歳入・歳出一体改革に取り組み」ことを閣僚に指示しています。
小泉純一郎元首相は06年6月22日に次のように話しています。
「歳出削減をどんどん切り詰め

ていけば、やめて欲しいという声が出てくる。増税をしてもいいから必要な施策をやってくれという状況になってくるまで、歳出を徹底的にカットしないとイケない」
2002年以来社会保険費の自然増を2200億円ずつ抑制し、この言葉を地で行っている歴代自公政権、その狙いは、消費税増税にあることは明白です。事実、福田首相は6月18日に、「消費税引き上げの決断のとき」と明言しました。
大企業・大資産家優遇税制や5兆円規模に拡大した軍事費の2つの聖域を正せば、社会保障財源を確保でき、財政健全化の道を開くことができます。
(現行の介護保険給付の一覧表を裏面に掲載しました)

コラム有明

▼前号で名古屋高裁での「自衛隊の空輸活動違憲」判決を評価したが続いた▼小泉は自衛隊のいる所が非戦闘地域だ」と詭弁を弄したが、これに対して久間防衛相(当時)は、「バグダッド空港で降りるとき、飛び立つときにもロケット砲が来る危険性と裏腹にある」飛行ルートの下で戦闘が行われているときは上空を含め戦闘地域の場合もあると思う」と国会答弁。それが判決文に▼判決はまた憲法前文の「平和のうちに生きる権利」にも触れる。この判決を「明快で私にも理解できる論旨」と述べる信毎主筆中馬氏は、「平和とは非戦の状態だけをいうのではなく、戦争の影が人々を不安にすれば、それはもう平和な生活とはいえない」と判決文を読み解く▼裁判長はさらに「九条に反し戦争の遂行への加担・協力を強制された場合、裁判所に差し止めや賠償請求できる」と続ける。「平和のうちには生きる権利」が抽象的な文言としてあるのではなく、基本的権利として裁判所に請求できると、明確に積極的に評価した意味は計り知れない▼35年前、長沼ナイキ基地自衛隊違憲判決をした福島重雄元判事は、「裁判所は証拠に基づいて堂々と憲法判断を」と違憲判断を避ける裁判所を批判する。

ウォーキングと池田町の観光

ガイドマスターとして思うこと

吾妻町 寺島 正治

8、9年前になるだろうか、林中の原好住さんに連れられて東山の尾根歩きをした。若い頃から里山歩きは好きで結構東山は歩いていたのだが、このコースははじめて。池田町にもこんなに素晴らしいところがあるのかと感動し、ここに人を連れて来たら自分と同じ感動を味わってもらえるだろうと、コースの整備に加わった。

地元の奉仕団体である高瀬ライオンズクラブに所属していたので、奉仕活動の一環としてトレッキングコース作りをはじめ、これを機に町内や近隣の町村に呼びかけ散策会を開いたところ好評で、しばらく春・秋の

2回トン汁サービス付きの散策会が続いた。回を重ねるごとに参加者の増えるこの行事を商工会のCI事業が引継ぎ、コースの整備やトレッキングイベントに力を入れてきた、そんな中2004年、日本ウォーキング協会主管の「美しい日本の歩きたくなるみち 500選」の公募に渋田見の有川勅さんが応募。クラフトパークから大町山岳博物館までの18kmのコースが「北アルプス展望のみち」として見事認定された。

そこでこれらを案内する人がいなくてはガイドをしてみたい人を募集。2008年にガイドマスター会(会長有川勅)が発足し、

私もメンバーに加わった。
ガイドマスターを気軽に引き受けたものの得意分野の狭い自分には知らないことばかりで、聞かれたことは何でも答えられなければと、胸に虎の巻をぶらさげのガイド...最近はかなり負担を感じている。
今まで町の観光協会・観光推進室とともにガイドマスターのメンバーが中心となって行ってきたウォーキングイベントも少しづつ町民の理解を得、輪も広がってきたように感じられる。
そこで、そろそろガイドマスターとしての本来の活動に集中し、勉強会等を開きながらお互いに知識を深め、池田町に来ていただくお客様に満足のいく案内ができるように努力したいと思っている。